

特別養子縁組里母さん体験談



うちの子は、生後2か月になる前に我が家の一員となりました。

里親になろうと思ったきっかけは「親に育ててもらうことができないこどもがいるのなら、うちで一緒に楽しく過ごせたらいいじゃん」という思いからでした。里親になって子育てをしたいことを話すと「里親までしてこどもを育てたいの?」と言われたことがあります。まだまだ制度が知られていないということと、人の考え方はそれぞれだなということを強く感じました。

そして、人それぞれだからこそ「我が家は我が家の家族のカタチです」と堂々としていたと思います。こどもを受け入れる前の説明では、出産までの胎内環境が整っていなかったりすると、発達の遅れが出てくることもあること等、それなりに厳しいことも言われました。だけど、あとで「こんなはずじゃなかった」とならないためにも、親になる覚悟が必要なんだと思いました。

いざ子育てが始まると、こどもはすぐに熱を出すし、喘息もちで救急にもお世話になったり、入院したりと、健康面だけでも本当に大変なことが沢山でした。だけど、いい事や楽しい事の方が100倍多くあり、こどもを育てることで視野が広がり、生活が豊かになったと感じています。

こどもを保育園に預け始めた頃は、まだ養子縁組の手続きが済んでいなかったなので、1年間は通称性でした。園の先生からは「どんな状態でも家族は家族だし、AちゃんのママはAちゃんのママだからね」と言われ温かく受け入れてくれました。職場に伝えたときは、手続き等初めてのことからわからないと言われましたが、しっかり調べて対応してもらい、休暇制度等も利用できました。職場や市役所、病院等での手続きに手こずることもありましたが、自分たちが伝え、広めることで自分たちも生活しやすくなるなと思いました。

《真実告知について》

生みのお母さんがいることは赤ちゃんの頃からずっと伝えていきます。出生地も伝えているので「〇〇県で生まれたよねー。お母さんに会いたい？大きくなったら電車で会いに行こうねー」と、明るく話しています。深刻に話しをすると暗くなってしまうので、明るくオープンに伝えていきます。本人はまだ1年生なので、どこまで理解しているか分からないけど、昔よりは多様性の社会になり、家族のカタチの幅も広がっているんで、どんな家族でも家族。「うちはこんな家族だよ」と堂々と言っていきたいです。

世間の里親制度の認知度はまだまだ低いので周囲に言いづらく、本人への告知もためらう人がいるかもしれないけれど「自分のことを知りたい」と思う気持ちは誰でも一緒だと思います。辛いことも明るく知らせて「たまたま自分はこうだった。だけど良いよね。不都合ないよね」と伝え続けていきたいと思っています。

当の本人は、今は混乱しているかもしれないけど、10歳くらいに何となく分かって、成人する頃にはしっかり理解して、一緒に実親さんに会いに行きたいなと思っています。

子育ては、一筋縄ではいかないこともありますが、こどもを抱きしめるだけで気持ちが充実して幸せホルモンが出る気がしています。幸せホルモンが出ると気持ちまで優しくなれます。お互いに相乗効果ありで、これからも一緒に頑張っていきたいと思っています。

《里親として》

子育てしながら、里親としてふれあいフォスター事業や、市のショートステイ事業にも参加しています。どちらも数日の預かりですが、自分の仕事の都合、家庭の都合と照らし合わせ、無理のない範囲での受け入れをしています。うちの子は、人との関わりが好きなんで、誰かくると楽しく過ごしています。よその子を迎え入れるからと言って決して特別なことをするわけではなく、一緒に近所の公園へ行って遊んで、みんなで食卓を囲んで、お風呂に入って寝るという普段通りの我が家で過ごしています。